

「君と私」

豊見城市立長嶺中学校三年 島袋 里音

いつもの通学路
真っ青な空に浮かぶ白い雲
運動場から聞こえてくる子供達の笑い声
デイゴの匂いを運ぶ心地良い風が
私の頬を撫でる
私はこの誇り高き島
沖縄で
幸せを噛み締めながら
心臓の鼓動を感じている
戦場へと向かう道
真っ黒な空から降ってくる爆弾の豪雨
三百六十度から聞こえてくる
赤子の泣き声
逃げ惑う人々の悲鳴
銃を発砲する音
そして命が爆ぜる音
大地の燃える匂いと血の匂いが
僕の頬をかする
僕はいつ殺されるか分からない恐怖に
心臓の鼓動を感じている

私には権利がある
幸せになるという権利が
自由
平等
平和
そして、命ある限り
私の生命は尊重されると
僕には使命がある
勝利のために人を殺すという使命が
自由
平等
平和
そして命までも
国のため、戦争のために捧げると

私が見るのは絢爛華麗な花火
僕が見るのは鬼気森然な火花を放つ爆弾
人を守って得る名声
人を殺して得る名声
祝福される赤ちゃん

重荷となる赤ちゃん
鉛筆を握る少年
銃を握る少年
希望に満ちた明日
脅威に満ちた明日
こんなにも同じなのに
こんなにも違う

僕たちは何か悪いことをしたのかな
どうして死ななくちゃいけないのかな
僕たちにだって夢があった
家族、友達、恋人がいた
温かいご飯、温かいお風呂があった
幸せがあった
日常があった
どうしてそれが
戦争で壊されなくちゃいけないのかな
どうして？
悔しいよ
もっと生きたかったよ
僕たちの人生を返してよ！

戦争はやってはいけないと言うけれど
それだけでは伝わらない
戦争の凄惨さを
目を背けたくなるような事実を
そして
あの日々を生きた人々の思いを
七十八年前
本当にあったのだと
文字にして
映像にして
声にして
心の底から伝えていかなければ
人はきつと過ちを繰り返す
そんなことは絶対させないと
私は今、ここに強く誓う

今日も私は通学路を歩く
多くの人が犠牲となった
この島の地を踏んで
君からの思いを胸に